



みょうこう 未来 BOOK

妙高で暮らすすべての人と
地球が笑顔になるために

妙高市のSDGsチャレンジ



すべてはその手から
SDGs 妙高
未来都市



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

妙高市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。
Myoko City supports sustainable development goals.

| 発行者 | 妙高市企画政策課

| お問い合わせ | 妙高市企画政策課

〒944-8686 新潟県妙高市栄町5番1号
[TEL] 0255-74-0005
[FAX] 0255-72-9841

妙高市
SDGs
公式サイト



| 妙高市SDGs公式サイト | <https://myokosdgs.jp/>
| インスタグラム | https://www.instagram.com/myoko_sdgs_action

妙高で暮らす すべての人と地球が 笑顔になるために



ねん そうぞう
2030年を想像してみてください。

みんなさんは、どこで、どんな暮らしをしているでしょうか。

じぶん せかい そうぞう
どんな自分、どんな世界を想像しますか。

ちきゅう みらい みらい みちしるべ
SDGsは、地球の未来、みんなの未来をつくる「道標」です。



「SDGs」ってなんだろう?
いま ひつよう
どうして今「SDGs」が必要なの?

ちきゅうじょう だれ
地球上の誰もが、
しあわ く つづ
ずっと幸せに暮らし続けるための
せかい やくそく
世界の約束です。

いま せかい もんだい かだい かか
今、世界ではさまざまな問題や課題を抱えています。

きこうへんどう いじょうきょう うみ もり しぜんかんきょう はかい おせん
気候変動による異常気象、海や森などの自然環境の破壊や汚染、

しんがた かんせんしょう けいざいせいいちょう かくさ かくだい
新型コロナウイルスなどの感染症、経済成長による格差の拡大、

ひんこん きが さべつ お み ふんそう
貧困や飢餓、差別、終わりの見えない紛争など。

せかい かか もんだい かいけつ せかいじゅう ひとびと
SDGsは、世界が抱えるこれらの問題を解決し、世界中の人々が、

しあわ くら つづ
幸せにずっと暮らし続けるために、

ねん こくれんそうかい き こ もくひょう
2015年に国連総会で決められた17個の目標(ゴール)です。

せかいじゅう くに ねん じぞくかのう せかい めざ
世界中の国が2030年までに、持続可能な世界になることを目指して、

どりょく やくそく
努力していくことを約束しました。

きほんてき かんが かた だれひとり と のこ
SDGsの基本的な考え方は「誰一人取り残さない」です。

せんしんこく はってんとじょうこく かんけい くに ひと きょうりょく
これからは、先進国も発展途上国も関係なく、すべての国と人が協力して、

あたら せかい めざ こうどう ひつよう
新しい世界を目指し行動していくことが必要なのです。



SDGsは誰が取り組むの? わたしひとり私たち一人ひとりです。

世界を変えるための大きな目標だと思うと、なかなか自分ごとに感じられないかもしれません。
しかし、大きな目標だからこそ世界のすべての人たちが力を合わせることが必要です。
一人ひとりがSDGsを理解し取組を始めることで大きな目標の達成に近づきます。

一人ひとりの「自分ごと」を みつけよう!

SDGsには17個の目標がありますが、目標にたどり着く方法は、人それぞれ。
未来の世界、未来の自分を想像しながら、まずは今の自分に何ができるのか考えましょう。
それがSDGsの第一歩になります。
はじめから17個の目標すべてについて考えるのは大変です。
次のページからはじまる、「妙高市のSDGs 17チャレンジ」を参考にして、
自分にできることから実践してみてください。
私たち一人ひとりの小さな毎日の行動が、地球を笑顔にし、
妙高市に暮らすすべての人、そして世界の人々の笑顔を増やしていきます。
2030年、そしてその先の未来に向かって、
一人ひとりの確かな歩みを進めていきましょう。



すべてはその手から
はじめます



すべてはその手から
SDGs 未来都市 妙高



妙高市のSDGs チャレンジ ▶▶▶ 17

INDEX

1 貧困をなくそう	P6
2 飢餓をゼロに	P7
3 すべての人に健康と福祉を	P8
4 質の高い教育をみんなに	P9
5 ジェンダー平等を実現しよう	P10
6 安全な水とトイレを世界中に	P11
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	P12
8 働きがいも 経済成長も	P13
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	P14
10 人や国の不平等をなくそう	P15
11 住み続けられるまちづくりを	P16
12 つくる責任 つかう責任	P17
13 気候変動に具体的な対策を	P18
14 海の豊かさを守ろう	P19
15 陸の豊かさも守ろう	P20
16 平和と公正をすべての人に	P21
17 パートナーシップで目標を達成しよう	P22

小学校・中学校の児童・生徒も取り組んでいます!	P23
SDGs未来都市妙高オリジナルロゴマーク決定!	P25
私たちのSDGs未来都市妙高行動宣言!	P27
市長メッセージ	P29

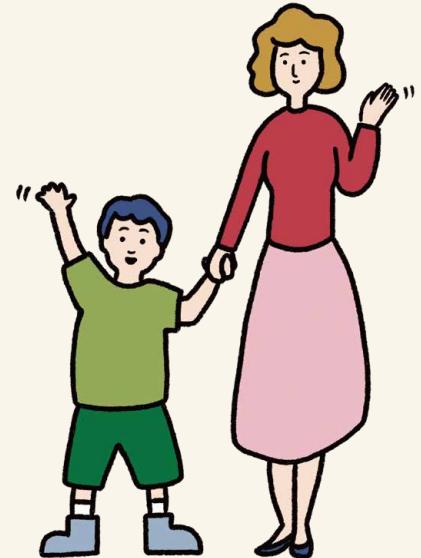
1.

1 貧困を
なくそう



ひんこん 貧困をなくそう

世界の貧困の問題を解決するのは、持続可能な社会を実現するための第一歩です。また日本国内でも7人に1人の子どもが平均的な暮らしを送ることができない貧困状態であり、身近な支援が求められています。



二 わたしたちにもできること

point 1

地域みんなで協力して 助け合おう

地域の人々と交流を深めることは、地域内で困っている人や助けを必要としている人を取り残さない社会づくりの一環です。



point 2

使わなくなった 制服などを寄付しよう

すべての子どもたちが笑顔で学校へ行けるよう、使わなくなった制服・体操着、ランドセルなどを寄付しましょう。



point 3

フェアトレードの 商品を購入しよう

発展途上国の立場の弱い生産者に正当な対価を払うフェアトレードの商品を買うことで、生産者の生活向上の助けになります。



妙高市社会福祉協議会 妙高おもちゃ病院

こわ おもちゃ せいめい やど こ えがお 壊れた玩具に生命を宿しすべての子どもに笑顔を

壊れたおもちゃの修理をとおしてすべての子どもたちを笑顔にし、ものを大切にする豊かな心を育み、貧困問題にも目を向けてほしいとの思いから、毎月第3水曜日に「いきいきプラザ」で、第3土曜日に「わくわくランドあらい」で『おもちゃ病院』を開院。ボランティアのおもちゃドクターが診察と修理を行っています。



2.



飢餓をゼロに

地球上には世界中の人食べられるだけの十分な食料がありますが、そのうちの3分の1は捨てられています。また、気候変動による自然災害や、紛争などにより9人に1人が飢餓に苦しんでいます。誰もが健康的な食生活を送ることができる仕組みを作りましょう。



point

1 こども食堂の取組を知ろう

地域の子どものみならず、お年寄りまで利用できる食堂。支援を必要としている人に、こども食堂の正しい情報を届けましょう。



あいあう食堂

子どもの居場所づくりとフードロスの削減を目指す

2017年から、ひとり親家庭と新井南小学校校区に住む子ども向けて、「あいあう食堂」を不定期で開催しています。また2020年からは、市内のひとり親家庭を中心に食料品や日用品などを提供するフードシェアリング活動も行っています。

point

2 妙高の郷土食について学んでみよう

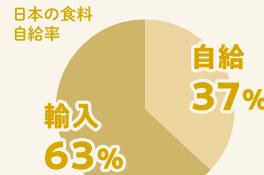
笹ずしやのべい汁、山もちなど、妙高市で昔から食べられてきた郷土食について、歴史や文化、作り方を学んで食べてみましょう。



point

3 毎日食べる食品の産地や生産方法をチェックしよう

日本は食料のほとんどを輸入に頼っているにもかかわらず、たくさんの食べ物を捨てている「食品ロス大国」です。食品の産地や生産方法を調べ、国産の商品を選ぶことで、日本の農業が活気づき食料自給率のアップにつながります。



3.



すべての人に健康と福祉を

新型コロナウイルス感染症をはじめ、現在でもエイズや結核などの伝染病や感染症で多くの人が亡くなっています。また日本では高齢化が進み、自立した日常生活を送れる「健康寿命」を伸ばすための取組も求められています。



point

1 運動の習慣化を中心、病気を未然に防ごう

ウォーキングイベントに参加するなど、日頃から運動を続けて生活習慣病にからないようにしましょう。



point

2 健康診断、検診を定期的に受けよう

市や会社で行われる健康診断や検診を受けることで、健康に対する意識が高まり、病気を未然に防ぐとともに、病気を早期に発見することができます。



point

3 地域のお年寄りを見守ろう

日本では、一人暮らしのお年寄りが社会的に孤立してしまうことが問題になっています。近所のお年寄りと日頃から挨拶をし合うなど、もしもの時に気づくことができる関係性を築きましょう。



じょんのび茶会

季節を感じるイベントなど集いの場を提供

毎月1回、地域の人々が気軽に集い、おしゃべりを楽しめるふれあいサロンを開催しています。季節に合わせたイベントや講演会、健康づくりなども行っています。また希望者にはボランティアで送迎を実施。外出機会の増加にもつながっています。



4.



質の高い教育をみんなに

質の高い教育をみんなに

紛争や貧困が原因で、学びたくても学べないたくさんの子どもたちがいます。誰もが公平に良い教育を受けられるように、また生涯にわたって学習できる機会を広めましょう。



point

1

市やボランティア団体が主催する講座や勉強会に参加してみよう

興味がある生涯学習などのプログラムについて広報誌やインターネットで探して、参加してみましょう。市では「まなびの杜」を開催しています。



point

2

図書館に行って日本や世界の現状について調べよう

図書館は誰もが利用できる知識の宝庫。日本や世界では現在どのような問題が起こっているのか調べてみましょう。



point

3

生きる力と郷土愛を育む「ほんもの教育」を推進しよう

郷土の恵まれた自然や歴史・文化、人などの教育資源を生かした協働的な学びを通して、郷土のよさを実感しましょう。



国際自然環境アウトドア専門学校「みょうこう野遊び塾」

妙高の自然を生かし、子どもたちの生きる力を育む
小学生を対象に野遊びをキーワードにした日帰りの自然体験講座を年6回、宿泊型の体験講座を年2回開催。夏はリバートレッキングや宿泊登山、冬は雪上キャンプなど本格的な冒険活動を通して、子どもたちの成長を促す場を提供しています。



5.



ジェンダー平等を実現しよう

働き方や家事の分担などにおいて、いまだに性別による不平等が残っており、日本の男女格差は先進国でも世界156カ国中120位と低いレベルとなっています。すべての人々が平等に活躍でき、心地よく暮らせる社会を目指しましょう。



point

1

妙高市女性人材リストに登録をしてみませんか

市では、審議会や委員会などへの委員参画や、各種講座での講師など、女性の活躍の場を広げてもらうことを目的に、女性人材リストを作成しています。



point

2

自分の好きなことにチャレンジしよう

男だから、女だからといった世の中のイメージにとらわれず、自分のやりたい事・好きなことを見つけて挑戦してみましょう。



point

3

LGBTQの理解を深めよう

「LGBTQ」という言葉を聞いたことがありますか?性はとても多様なものです。そのあり方に正解やルールはありません。お互いの違いを認め、尊重し合うことが大切です。

- L Lesbian レズビアン、女性同性愛者
- G Gay ゲイ、男性同性愛者
- B Bisexual バイセクシュアル、両性愛者
- T Transgender 身体と心の性が一致しない人
- Q QueerやQuestioning 身体の性とは別に、心の性が定まっていない人など

岡田麻梨亞さん、巧さん

育児休業制度を利用し、夫婦で子育てを楽しむ

子どもの成長を感じる貴重な時間を一緒に過ごしたいと、出産に合わせ夫婦そろって1年間の育児休業を取得した岡田さん夫妻。家事も育児も二人でやれば余裕が生まれ、楽しみながら子育てができると日々、成長していく愛娘との生活を満喫しています。



6.



6 安全な水とトイレを世界中に

安全な水とトイレを世界中に

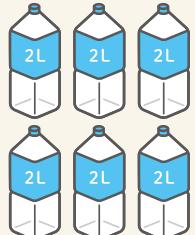
世界には水質汚染や水不足で苦しむ人々が多くいます。水を大切に使うとともに、きれいな水を育む森林や河川、湖沼などの生態系の保護や回復に力を入れましょう。



point

1 水を大切に使おう

洗濯に残り湯を使う、食器を洗い流すとき以外は水を止めるなど、必要以上の水は使わず節水して、水を大切に使う習慣を身につけましょう。



シャワーを1分短縮するだけで
2Lペットボトル6本分の節水

point

2 油などを直接排水溝へ流さないようにしよう

水質汚染の原因の一つである生活排水の汚れを分解するためには大量の水が必要です。油は拭き取るなどして、排水溝に流す汚水の量を減らしましょう。



point

3 篠ヶ峰ダムに 行ってみよう

地域の大切な水源である篠ヶ峰ダムやガス水道管理センター（志浄水場）を見学して、自分たちの生活用水はどのように供給されるかを知りましょう。



マルニジーンズ マルニ株式会社 代表 西脇謙吾さん

豊富な雪解け水が生み出す新たな妙高ブランド

2017年から敷地内に湧き出す地下水に「生デニム」を漬け込み、さらに雪の上にさらすという新潟独自の技法「雪さらし」を取り入れた製品づくりをしています。日本有数の豪雪地帯という立地を生かし、節水しながら妙高ならではのブランドづくりに取り組んでいます。



7.



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

エネルギーをみんなに そしてクリーンに

電力は私たちの生活を豊かにすると同時に、排出される温室効果ガスによって地球環境に重大な問題を起こします。電力のムダづかいをやめる省エネを意識した生活を心がけましょう。



point

1 電気のオンオフ、 コンセントを抜く

使っていない電化製品のコンセントを抜いたり、省エネ商品を選んだりして、電力の無駄遣いをやめる意識をしましょう。



point

2 再生可能エネルギーを 活用しよう

太陽光発電は、家庭でも導入できる再生可能エネルギーです。ソーラーパネルの設置で、自宅の電気をまかなうことができます。市では環境に配慮した持続可能な住まいづくりの支援をしています。



point

3 雪を利用した 天然冷蔵庫を活用しよう

雪は天然の冷蔵庫です。冷やして飲みたいドリンクやお酒も、雪の中に入れておけばキンキンに。知恵と工夫で楽しみながら電力削減に取り組みましょう。



後藤凌雅さん、沙弥香さん

省エネ+創エネで快適な暮らしを実現

電気代や二酸化炭素排出量を抑えられると聞き、選んだのはゼロ・エネルギーhaus。降雪量の多い妙高市でも十分な発電量が得られ、日々の生活に活用しています。また断熱性能が高いため、少ない冷暖房エネルギーでも温度差のない快適な住まいを実現しました。



8.



はたら 働きがいも 経済成長も

持続可能な経済成長のために、生産性を高めた産業の拡大と、ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい雇用）の推進が不可欠です。また、ワークライフバランスを考えた職場環境の改善も重要です。



point

1

ICTなどテクノロジーを利用して、生産性の向上・残業時間の削減に取り組もう

今まで人力で行ってきたことの一部を、ICTなどのテクノロジーに任せることで、生産性の向上や残業時間の削減を実現しましょう。



point

2

テレワーク・ワーケーションを積極的に導入しよう

時間と場所にとらわれない柔軟な働き方ができる、テレワークやワーケーションを取り入れ、ワークライフバランスを向上させましょう。



point

3

誰もが働ける社会をつくろう

近年、障がい者の働く場の拡大により、活躍の幅も広がってきています。地域で多様な人が活躍できる環境づくりに努めましょう。



株式会社リクルート 岡本裕野さん

好きな場所で好きな仕事を

自然環境と地域産業の可能性に惹かれ、昨年家族とともに妙高高原に移住。夫婦ともに東京の会社に所属しながら、リモートワークで業務をこなしています。出社が当たり前の頃と比べ、時間的余裕が生まれ、子育てや趣味も充実。妙高には、仕事も豊かな生活も妥協せずに選択できる環境があります。

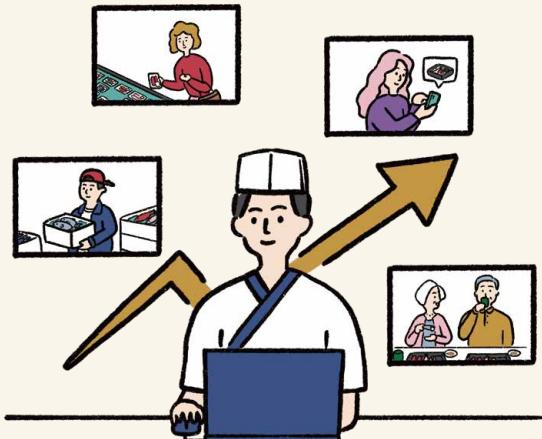


9.



さんぎょう ぎじゅつかくしん 産業と技術革新の基盤をつくろう

すべての人々が公平に使えるインフラの整備は公共の福祉や経済発展にも重要な役割を持ちます。高品質で災害にも強く、かつ環境に配慮したインフラや技術革新が求められます。



point

1

地場産業を応援しよう

地元の商品や地元で作られた商品を買うことは地元の農家や産業の応援になります。まずは「妙高あっぱれ逸品」をチェックしてみましょう。



point

2

自分たちの生活を支えるインフラ設備を理解しよう

妙高市の水道水はどこからきているのか等、普段何気なく使用しているインフラについて知ることは大切です。



point

3

デジタルシフトに取り組もう

AIやドローンの活用などのデジタルシフトへの取組が、持続可能な産業化の推進につながります。



株式会社リクルート 岡本裕野さん

雪を利用した天然の冷蔵庫で地場商品に高付加価値を

雪が多い地域の特性を生かし、道の駅あらいの拡張エリアに新たに雪室を整備しました。年間通して室温1～3度、湿度90%以上という安定した環境の中で日本酒や米、野菜、そばの実などを保管。雪室で鮮度を維持した食品は農産物直売所で販売しています。



10.



ひとくにふびょうどう 人や国の不平等をなくそう

ひんぶ かくさ かくだい じんしゅ みんぞく せいべつ ねんれい しゅっしん
貧富の格差拡大のほか、人種や民族、性別や年齢、出身
じょう さべつ もんだい だれ
や障がいなどによる差別が問題となっています。誰もが
びょうどう けんり も ささ あ しゃかい め ざ
平等な権利を持ち、みんなで支え合う社会を目指しま
しょう。



二二わたしたちにもできること

- | | | |
|--|--|--|
| <p>point 1</p> <p>手話や音訳、点字などに興味を持ち学んでみよう</p> <p>手話や音訳、点字を覚えて、耳の聞こえない人、目が見えない人が暮らしやすいインフラについて考えましょう。市では、手話言語条例を制定するなど、すべての市民が共に生きる地域社会の実現を目指しています。</p>  | <p>point 2</p> <p>サポートを必要とする人のヘルプに耳をすませよう</p> <p>お年寄りや子ども、心身の不自由な人や体調不良の方など、困っているときには積極的に声を掛け、お互いに助け合える社会にしていきましょう。</p>  | <p>point 3</p> <p>お互いの違いを認め、理解し合える社会にしよう</p> <p>世界の国、人種、宗教、性別、文化、考え方の違いを知り、認め合うことで不要な争いやすれ違いを避けることができます。</p>  |
|--|--|--|

手話サークル あじさい

手話を通じて聞こえない人たちの理解を深める会

毎週火曜日、いきいきプラザを会場に聴覚障がい者(ろう者)とのコミュニケーションを図ることを目的に活動しています。名前の由来は、あじさいのように一人ひとりが力を合わせれば、何かができるのではないかという想いがこめられています。手話を使ったゲームや学習会、交流会などを実施しており、年齢・性別関係なくどなたでも参加大歓迎です。



11.



すつづ 住み続けられるまちづくりを

こじょせいしようもひとびとこうれいしゃだれ
子どもや女性、障がいを持つ人々や高齢者など、誰もが
あんしんすつづさいがいつよかんきょうはい
安心して住み続けられるように、災害に強く環境に配
りよおこな
慮したまちづくりを行いましょう。



二二わたしたちにもできること

- | | | |
|---|--|--|
| <p>point 1</p> <p>妙高里山応援団による地域の共助活動に参加しよう</p> <p>過疎化や高齢化により、運営が難しくなった地域行事や草刈り等の共同作業を支える妙高里山応援団。活動の応援、参加をしてみませんか。</p>  | <p>point 2</p> <p>雪や災害に強いまちづくりを</p> <p>雪や災害への対策は、地域ぐるみでの協力が不可欠です。ルールを守り、助け合い、住みよいまちづくりに取り組んでいきましょう。</p>  | <p>point 3</p> <p>地域の行事に参加しよう</p> <p>地域行事の参加は、子どもたちの交流の場を作るだけでなく、文化や取組を次世代に引継ぐ役割持っています。</p>  |
|---|--|--|

妙高市白山町町内会

町内会独自に資源の有効活用に取り組む

1999年から地域住民と回収業者の協力を得て、町内独自でアルミ缶の回収をスタート。各回収拠点に集めたアルミ缶は資源回収業者が引き取り、売却資金は町内会の活動資金として活用しています。この活動を通じ住民のリサイクルへの意識も向上しました。



12.



せきにん つくる責任 つかう責任

限られた天然資源を持続的に効率よく使うため、生産者も消費者も一人ひとりが意識して行動しなければなりません。食べ残しを減らすなど、有害なごみの排出を減らすよう努力しましょう。



二二 わたしたちにもできること

point 1

買い物は必要な物を
必要なときに
必要な分だけにしよう

ごみができる限り出さない生活スタイル「ゼロウェイスト」を推進しています。量り売りやプラスチック包装しないお店を利用し、必要な分だけの買い物を心がけましょう。



point 2

「Rのお店」で
買い物をしよう

市では積極的にごみを減らす取組をしている店舗を「ごみ減量・リサイクル推進店」(通称「Rのお店」)に認定しています。



point 3

「もったいない!食べ残しゼロ運動協力店」に
登録しよう

小盛りや持ち帰り容器提供など、食べ残しぼりを目指すお店を、HP等で周知しています。登録いただくことで環境配慮のPRや生ごみ処理にかかる経費の削減につながります。



蕎麦処 文ざ

食品ロス削減にミニサイズメニューを活用

「もったいない!食べ残しぼり運動」にも参加。ミニサイズメニューを用意するほか、要望があればどの料理も量少なめに対応。また、セルフオーダーシステムではご飯の量の選択を必須にするなど、食べ残しを減らす仕組みづくりに取り組んでいます。

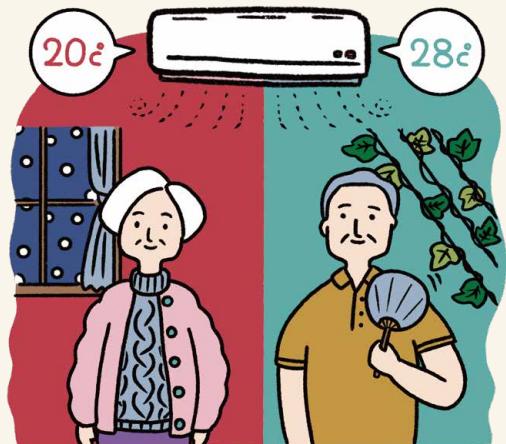


13.



きこう へんどう 気候変動に具体的な対策を

温室効果ガスによる温暖化や地震、台風などの自然災害により、毎年大きな被害がでています。国を超えて温暖化防止や災害対策に取り組むとともに、個人でも防災やエコの意識を持つことが大切です。



二二 わたしたちにもできること

point 1

脱炭素化に取り組もう

毎日の移動を環境負荷の高いマイカーから、公共交通機関や歩行、自転車等の負荷の少ない方法に置き換える「スマートムーブ」を実践することで、二酸化炭素の排出を削減できます。



point 2

森と里山を守ろう

森林は、光合成で二酸化炭素を吸収し、酸素を作り出すことから、地球温暖化の防止に貢献しています。保全活動に参加しましょう。



point 3

クールビズ・
ウォームビズを
実践しよう

気候に合わせたクールビズやウォームビズを行い、冷暖房の過度の使用を抑えるように心がけましょう。



新井郵便局

みどりのカーテンで夏場の省エネルギー対策

ゴーヤのつるをガラス張りの壁面に這わせて、自然の力を利用した「緑のカーテン」で夏場の省エネルギー対策に取り組んでいます。日差しが和らぐため、室内の気温の上昇を抑えることができるほか、お客さまからは花や実がなるのを楽しんでいただいている。



14.



うみ ゆた まも 海の豊かさを守ろう

かいよう おせん ぎょぎょうしげん らんかく うみ えんがん
海洋ごみや汚染、漁業資源の乱獲によって海と沿岸
の生態系が危機にさらされています。魚介類などの
すいさんしげん えいきょう せいいかい かいふく かつどう
水産資源に影響のある生態系の回復のための活動や
かんきょうほぜん かつどう せつきょくとき さんか
環境保全活動に積極的に参加しましょう。



二二 わたしたちにもできること

- point 1** マイバックや
マイボトルを持ち歩こう
- point 2** 地域の清掃活動や
河川・海岸清掃に
参加しよう
- point 3** 環境にやさしい洗剤を
使おう



妙高高原北小学校

具体的な活動を通して海洋汚染問題に取り組む

総合的な学習の時間でSDGsについて学び、授業の一環として道路清掃と直江津の海岸清掃を実施。1月に海洋プラスチック問題を訴えるポスターを作成し、市民の皆さんに呼び掛ける活動を行いました。学校では今後も環境を考える授業を続けていく予定です。



15.



りく ゆた まも 陸の豊かさも守ろう

みず くうき しんりん むちつじよ だいきぼ ばっさい
きれいな水と空気をつくる森林の無秩序な大規模伐採
かんきょうはかい かいはつ おお せいぶつ ぜつめつ
などの環境破壊や開発により、多くの生物たちが絶滅
きき ひとり しせんかんきょう ほぜん
の危機に瀕しています。一人ひとりが自然環境の保全
いしき じぶん
を意識し、自分にできることからはじめましょう。



二二 わたしたちにもできること

- point 1** 妙高高原
ビターセンターの
ガイドツアーに参加しよう
- point 2** 環境サポートーズに
登録して火打山の
ライチョウを救おう
- point 3** 植林活動に
参加しよう



妙高里山保全クラブ

地道な里山の整備活動を通して生態系を守る

高床山森林公園や小丸山新田丘陵地を基点に、除伐、間伐、下草刈りによる森林整備を行っています。活力あふれる里山林への更新によって、里山としての植生環境の再生がみられてきました。また保育園児や小学生の自然体験活動のサポートなども行っています。



16.



平和と公正をすべての人に

世界には戦争や紛争、暴力によって生活や命を脅かされる人々がいます。平和で安心して暮らせる社会の実現には、法律などの公正な制度を、誰もが平等に利用できる社会をつくることが重要です。



point

1 平和について学ぼう

世界で起きている戦争や紛争、歴史について調べて話し合うことで、平和とは何かを学びましょう。



point

2 子どもたちをいじめや暴力から守ろう

いじめや暴力から子どもたちを守るため、日ごろから見守りや声掛けを行うなど、地域全体で子どもの成長をサポートしていくことも必要です。



point

3 政治の役割について考えよう

選挙の投票は世界であなただけが持っている大切な意思表示の権利です。また、家族で政治への参加について考える機会を設けましょう。



一般社団法人 妙高青年会議所

青色防犯パトロールで安全・安心なまちづくりに貢献

妙高青年会議所では小学校など子どもが遊ぶ地域を重点的に、青色回転灯を装着した車両、通称「青パト」で自主防犯パトロールを実施。地域全体の防犯意識向上につながるとともに、犯罪を行おうとする者に対する抑止効果にもなっています。



17.



パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsの達成のためには、国を超えた国際的な協力、企業や自治体、様々な団体や私たち一人ひとりが連携していくことがなにより大切なことです。



point

1 妙高市民の心を推進しよう

家庭・学校・職場・地域が一体となって思いやりや感謝の気持ちなど、この地に脈々と受け継がれてきた豊かな心を継承し、広める「妙高市民の心」にオール妙高で取り組みましょう。



point

2 市や企業のSDGsへの取組を知ろう

市やあなたが通う学校、勤める企業、近所の会社などではどのような取組が行われているのか調べてみましょう。



point

3 学んだこと、考えたことを発信していこう

SDGsについて学んだこと、気づいたことを普段のコミュニケーションやSNSを通して発信してみんなで共有し考えてていきましょう。



鮎正宗酒造株式会社

老舗が手を組み、長く愛される商品を開発

日本酒の消費促進と妙高市ならではの名産品を作りたいと、地元の老舗和菓子店「養老本舗 池田屋」とコラボ。より幅広い層に楽しんでもらえるよう「鮎正宗」「君の井」「千代の光」と妙高市内にある3つの酒蔵の酒を使った「純米酒かすてら」を開発しました。



小学校・中学校の児童・生徒も取り組んでいます!

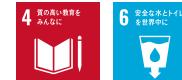
〈令和3年度の取組を紹介〉

川と生き、川に学ぶ

～内川から考える川とともに歩むこれからの生活～

斐太北小学校／4年生

内川に入って遊んだり生き物をつかまえたり歴史を調べたりする中で、川の魅力を知り、治水や利水、親水の役割があることを学習。きれいな水が飲めない、トイレがない国や人がたくさんいること、日本でも水不足の問題が心配されていることも知る。自分たちにできる川や水を大切にするための取組を考え、多くの人に知ってもらいたいと発信、実践していく。



いつまでも大好き妙高高原

妙高高原中学校
1年生／2年生／3年生

●地域貢献活動

妙高高原駅前の緑化、スポーツ公園清掃活動など、感謝の気持ちで住みよいまちづくりに貢献。



●修学旅行

新潟県内をめぐるマイクロツーリズムで新潟や妙高の魅力を再発見。郷土の宝と働きがいを学習。

●妙光祭

コロナの影響を受けた観光産業などに元気になってもらいたいと新たに企画。地域とのコラボ商品「マドレーヌやパウンドケーキ」を開発。イベント当日は大盛況!

●いじめ見逃しゼロスクール

SDGsの視点から居心地のよい学校づくりに取り組む。



地球を笑顔に にこにこ学年

妙高高原北小学校／4年生

自然との関わりから、自然の豊かさに気づき、大切にしたいという気持ちをもった子どもたち。「森林学習」や「無印良品」の見学から、SDGsに関わる多くの問題があることを知った子どもたち。自分たちにもできることがないかを考えた結果…。「妙高高原」から「直江津の海岸」までごみ拾いや「直江津海岸の清掃活動」を実践。「海洋プラスチック問題」について、少しでも解決するための力になりたい!ポスターやTシャツを制作し、妙高市や上越地域の皆さんに問題解決のための取組を発信。



2050年に妙高市を残そう

新井中学校／3年生

生徒が自ら地域の魅力や課題を見つけ、妙高市が生き残るために方策を検討。全30班が、いつまでも住み続けられる地域にするための取組を動画にまとめ、提言として市役所に発信。



地域活性化 妙高活性化に向けた行動を

妙高中学校／3年生

妙高地域を活性化させたいと、自慢の資源を動画やパンフレットにまとめPR

- 未来に残したい、多くの人に味わってもらいたい「竹の子汁」や「山もち」のレシピを宣伝。
- 地域の宝「関山神社」の魅力を宣伝。
- 妙高でしか体験できないワークーションを動画で宣伝。





SDGs未来都市妙高 オリジナルロゴマーク決定!

「SDGs未来都市をテーマに未来の妙高市を想起させるオリジナルロゴマーク」が公募により決定しました。最優秀賞、特別賞作品は、妙高市のSDGs未来都市妙高のプロジェクトに活用していきます。



すべてはその手から

SDGs 未来都市 妙高

最優秀賞 倉本 容子さん(広島県)

コンセプトは「すべてはその手から」SDGsの17の目標と、妙高市が目指している人と自然が共生する持続可能なまちづくりは、すべて一人ひとりの手から始まる、という意味を込めたロゴマークを作成しました。二つの手を合わせて妙高市の頭文字「M」を表現しています。すべてはその手から「始まる」すべてはその手から「作られる」すべてはその手から「結ばれる」「すべてはその手から」の後に思い思いの言葉を付けることで、持続可能な未来へ向けたまちづくりへの各々の考えを表現できます。一人ひとりが考え、そしてその手から環境都市を創造することができる…そんなロゴマークです。



特別賞 是澤 義隆さん(岡山県)

妙高山と、いもり池に映る逆さ妙高を図案化したマークです。妙高山麓をはじめとした豊かな自然を守りながら、経済と社会との好循環を生み出し、妙高市全体が豊かで継続可能な未来に向かって発展していく様子を表現しました。



特別賞 大出 光一さん(宮城県)

このデザインは、妙高市の周囲にある山々を象徴化して「妙高山」を代表として描き、その姿を「いもり池」に映した様子として表現した図案になります。湖面に映る様子から、澄んだ空気と自然の豊かさが感じられます。山がつくり出す自然環境が、麓に暮らす人々の生活を豊かにし、大いなる恵みを与えています。周囲には、日本百名山で越後富士とも呼ばれる秀峰「妙高山」、その他にも日本最北で最小の個体群であるライチョウが生息する「火打山」、春の女神と呼ばれるギフチョウが舞う姫川原地区の「高床山」など、山々が素晴らしい環境をつくり、唯一無二の妙高市の魅力をつくっています。そうした自然と雄大な四季の景観の魅力をSDGs17色で表現した図案になります。

私たちの SDGs未来都市妙高行動宣言!

2022年2月27日(日)に妙高市文化ホールで行われた「SDGs未来都市妙高推進フォーラム」において市民、企業、行政の各代表者からSDGs未来都市の行動宣言が読み上げられました。ここでは、その全文を紹介させていただきます。



1

市民代表

赤間さんご家族

私たち人間の経済・社会活動によって、地球が悲鳴をあげていることが分かりました。世界では、多くの若い世代がこの現状を自分事として、世界の指導者たちに訴えています。僕たちもこのまま、今までと同じことをやっていてはいけません。

大好きな家族・大好きな友達

世界の尊い命を守るため

妙高の素晴らしい自然・食・文化を

未来の子どもたちに引き継ぐため

気候危機の現状を他人事ではなく自分事として

私たちにもできる「SDGs」を

家族で話し合い、そして実践していきます。

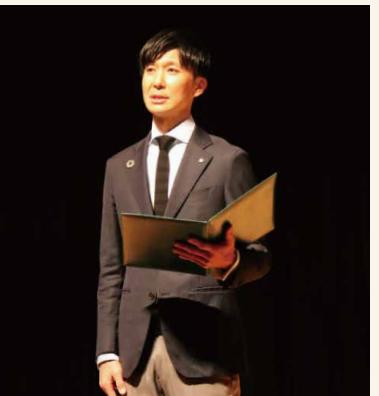


2

事業所代表

山崎建設株式会社 山崎 健太郎さん

私たちのような地方の企業こそ地域の繁栄を視野に入れて会社経営をしていかなければなりません。SDGsに取り組むことは、企業にとって直接的に利益を生むものではありませんが、環境に配慮し、社会に貢献することで、経済を循環させ、地域を活性化させる。SDGsは社会全体のマネジメント機能を有しているものと思っています。また、地方の小さな企業であっても「自分たちの普段の仕事が国際社会に確実に繋がっている」と意識することも重要だと考えています。



私たちは、世界の未来のかたちである

「SDGs」の達成に貢献するとともに

地域や産業が抱える課題と向き合いながら

持続可能性を追求し、

みんなが笑顔で住み続けられる地域となるよう、走り続けます。

3

行政

妙高市

「誰一人取り残さない世界の実現」に向け、本当に大切なものは何かを考え、そして行動を起こし、持続可能な社会を実現していくことが今、求められています。

激甚化する自然災害、気候危機への対応は、今を生きる私たちの将来世代への責務であり、2030年に向け、いかに実効性のある行動を起こせるかが、持続可能な世界への第一歩となります。

妙高市は「SDGs未来都市」として

市民・地域・事業所など、

すべての主体が主役となり、

脱炭素に向けた取組を

加速していくとともに、

官民共創による持続可能な

まちづくりを先導し、

笑顔あふれる妙高を創り出していくます。



市長メッセージ

妙高市 市長 入村 明

このたびの、「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」の選定につきましては、当市の基本理念である「生命地域の創造」をより具体的に加速していくうえで、大きな意味を持つものと感じております。

選定都市としての自覚と責任に立ち、SDGsの達成に率先して取り組むとともに、妙高で暮らすすべての人と地球が笑顔になる「サステナブルシティ 妙高」の実現に向け、市民の皆様をはじめ、地域、事業者の皆様と手をとり合い、持続可能なまちづくりに邁進してまいります。

